



航海日記 冬全



カ 5
6013
3



五月十日未陰



一 舟より夜子の間一走るをり廻り至り舟上登りて山を
見ゆ。白波斗り。山あり。舟人に別業國
の軍艦より追ふ。午後後を渡のヌー子ルをりる。

一 昨出帆ヨリ正午迄百九拾壹里 実暖才七十二交
小待 四十交 西径 七十交

一 十日晴申中風より遠少艘の舟をりる。

正午迄百九十一里 実暖才七十三交
小待 辛九交六分 西六十六交六分

一 十日官商晴南風より舟中一日舟人の事より
自一カルコシと海軍より一カルコシハ神國の舟中より



夫のうらまは一倍多し

正午時迄 百六十七里 寒 七千四交
小三十九交 千一十 西 七千三交 千一十 五抄

同 舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
少用とぞも 順風 帆斗を船の力る候
スグルフを水の中よりとる候

正午時迄 二百三千里 寒 七千五交
小三十九交 十分五抄 西 七千八交 千九抄

同 舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
正午時迄 二百三千里 寒 七千三交

小三十八交 千一十 西 七千三交 千七抄

同 舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
正午時迄 二百三十六里 寒 七千七交
小三十八交 千一十 西 七千九交 千一十 五抄

同 舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
正午時迄 百九十三里 寒 七千八交
小三十七交 千五抄 西 七千三交 千一十 抄

同 舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
舟の初程 船の初程 船の初程 船の初程 船の初程
正午時迄 百九十三里 寒 七千八交
小三十七交 千五抄 西 七千三交 千一十 抄

を國の去々中なるヨリハ今百道也其氣を以て用多別
并利里國の高形子達子申別和南より走了

正年道 百十七里 寒 七十八交
北 三十七交二十ト 西 四十八交十ト

一 因亦之知晴多風今ヨリ日本人の於此に停降せり
順風ヨリハ遠き物を以て用 蒸と具を南に之即其味
中ヨリハスルヲを以て之

正年道 百九十九里 寒 七十九交
北 三十四交五ト下 西 三十二交七ト下

一 因亦之存晴多風此猪方味物也猪油も亦
法食料 在り之に之ハ力也。人控と此是猪
も亦ハ其味ヨリハ子ヨリハ子ハ其味ヨリハ食料用意

其味ヨリハ其味ヨリハ其味ヨリハ其味ヨリハ

正年道 百七十四里 寒 七十八交
北 三十二交二十七ト 西 二十五交十ト

一 因亦之已晴多風此船ハ向く走。人食事ハ有
中ヨリハ船中日本人物中ハ之公ハ其味ヨリハ
今ヨリハ其味ヨリハ申別達子舟を渡を以て
別格多也。其味ヨリハ其味ヨリハ其味ヨリハ

正年道 百二十四里 寒 八十交
北 三十五交五ト 西 三十四交十八ト

一 因亦之正年晴多風今ヨリ船を渡を以て并利
里國ヨリハ其味ヨリハ其味ヨリハ其味ヨリハ
年ヨリハ其味ヨリハ其味ヨリハ其味ヨリハ

たろめと又その後と想く茶とぬとぞる各園を
もにすを産る〜皆交那園より出るあまをり
目〜この價より出る〜貪人なりどあまをり
ふ能又輪油と臭油と〜鯨の油なりまこ
り〜をくも鯨の油と〜製成園と各園に
る鯨油の多く出るとぞりま〜鯨の日本
近海より〜

正午迄 百十五里 寒暖 八十二度
北二十度交十九ト 西二十三度交十八度

一 因りたる未星を由風を後船を獲るとる和
中は終〜温純粉と〜碇石を能ふぬと
まのふり糸帯星ソグらとらる

正午迄 二百二十里 寒暖 八十五度
北二十三度交八ト 西二十九度交十九ト

一 因りたる申時を由風を別佛の軍艦より獲ると
合を和申と稀隠の

正午迄 二百二十里 寒暖 八十五度
北二十三度交八ト 西二十九度交十九ト

一 因りたる南風を由後晴を由風を由陽の志下を由
今左陽二十七分と七分とある和申我木の
食事と飯と十分子あり〜印と陰との和
文と〜温純の本新の骨と〜とらる
〜とらる

正午迄 二百二十里 寒暖 七十八度

てきまゝとありていゝ多れなるものなりとトルトガラニテと
よ白港寺護英國の三三示初申く本年に於て
と先んて河内を又新地とて之を後半年交

一 四つ子晴東月沛和南港ハ船中一突人々を
初カキ一々食料調達の為子母とてとせし
有く船中一々食料調達の為子母とてとせし
走る物々も海より先々の等々とてとせし
鳥の鳴き声も先々の等々とてとせし
午の先々の等々とてとせし

之帆半年近五八里 寒候半年交
北十交甲下 西二十交甲下

一 四つ子晴多風船ハ東由のりて走る船中際際

正午近百九十四里 寒候半年交
北十交甲下 西二十交甲下
一 四つ子晴午後雨多風力も強月も甚
を少用け過る花多きとて

午時近百八十五里 寒候半年交
北十交甲下 西二十交甲下

一 四つ子知事晴も風力加車をとり 蒸氣も用
由底の別子利便の者好し遊子己ノ刻ヒテ
少の着候をぬりてカハルホニヤ夫も
辛志なる不化とてはたは持ゆりて
中へ移るるも官立も
とて又利便の大統領とて

四年... 新古院... 入古古院... 出

午近百三十四里 寒 小午交
北十交五下 午抄 西十九交二下

因六百... 傳... 是... 聽... 出... 交... 抄

午近二百里 寒 小午交
北七交五下 午抄 西十一交二下 午抄

日七... 午近百七十里 寒 小午交
北 小午交
西十四交三下 午抄

因... 午近百七十里 寒 小午交
北 四交 午抄
西十二交二下

因九... 午近百七十九里 寒 小午交
北 二交 午抄 八下
西九交四下 午抄

因十... 午近百七十五里 寒 小午交
北 交 四十二下
西六交五下 午抄

因... 午近百八十九里 寒 小午交
北 一交 五十八下
西四交七下

一 同 上 宮 成 晴 南 風

年 近 東 九 十 几 里 四 分 の こ
寒 七 十 七 夜

北 一 五 十 七 夜
西 一 五 十 七 夜

一 同 上 宮 成 晴 南 風 吹 ぬ 時 中 夜 舟 運 出 下 上 上 宮 兩 方
舟 中 の 春 水 氷 じ づ づ 舟 八 五 版 の こ 一 日 曜 日 曜 日 曜 日
あ け 年 近 東 九 十 几 里 北 一 五 十 七 夜 西 一 五 十 七 夜

年 近 東 九 十 几 里
七 十 七 夜

北 一 五 十 七 夜
西 一 五 十 七 夜

一 同 上 宮 成 晴 南 風 吹 ぬ 時 中 夜 舟 運 出 下 上 上 宮 兩 方
舟 中 の 春 水 氷 じ づ づ 舟 八 五 版 の こ 一 日 曜 日 曜 日 曜 日
あ け 年 近 東 九 十 几 里 北 一 五 十 七 夜 西 一 五 十 七 夜
舟 中 の 春 水 氷 じ づ づ 舟 八 五 版 の こ 一 日 曜 日 曜 日 曜 日
あ け 年 近 東 九 十 几 里 北 一 五 十 七 夜 西 一 五 十 七 夜

正 年 近 東 九 十 几 里 南 緯 零 夜 十 五 分 子 舟
七 十 七 夜 東 緯 四 夜 十 分 舟

一 同 上 宮 成 晴 南 風 吹 ぬ 時 中 夜 舟 運 出 下 上 上 宮 兩 方
舟 中 の 春 水 氷 じ づ づ 舟 八 五 版 の こ 一 日 曜 日 曜 日 曜 日
あ け 年 近 東 九 十 几 里 北 一 五 十 七 夜 西 一 五 十 七 夜
舟 中 の 春 水 氷 じ づ づ 舟 八 五 版 の こ 一 日 曜 日 曜 日 曜 日
あ け 年 近 東 九 十 几 里 北 一 五 十 七 夜 西 一 五 十 七 夜

年 近 東 九 十 几 里 南 一 五 十 七 夜
七 十 七 夜 東 一 五 十 七 夜

一 同 上 宮 成 晴 南 風 吹 ぬ 時 中 夜 舟 運 出 下 上 上 宮 兩 方
舟 中 の 春 水 氷 じ づ づ 舟 八 五 版 の こ 一 日 曜 日 曜 日 曜 日
あ け 年 近 東 九 十 几 里 北 一 五 十 七 夜 西 一 五 十 七 夜
舟 中 の 春 水 氷 じ づ づ 舟 八 五 版 の こ 一 日 曜 日 曜 日 曜 日
あ け 年 近 東 九 十 几 里 北 一 五 十 七 夜 西 一 五 十 七 夜

平年述るる中ノ里 南ニ交り下
ルニ交り下 東ニ交り下

一同ナシ知ル所ノ海風カキル海面ナリハノ偏出ナリ
ハ無弗利加國ニモ其ノ所ニ修めりて之ヲ流ル
ルニモ其ノ所ニ修めりて之ヲ流ル
ルニモ其ノ所ニ修めりて之ヲ流ル
ルニモ其ノ所ニ修めりて之ヲ流ル
申商ノ向キ走ル

年述 百七十七里 南ニ交り下
ナリ 七十七里 東ニ交り下

一同ナル所ニ陸地モ同カリスルヲ海中ニテモ
申商ノ向キ走ル 故ニ陸地ニ向キ走ル年別
ニ陸地ニ向キ走ル 是無弗利加ノ地ニテ
海ニ向キ走ル 吾石
申商ノ向キ走ル 故ニ陸地ニ向キ走ル年別
ニ陸地ニ向キ走ル 是無弗利加ノ地ニテ
海ニ向キ走ル 吾石

一同ナル所ニ陸地モ同カリスルヲ海中ニテモ
申商ノ向キ走ル 故ニ陸地ニ向キ走ル年別
ニ陸地ニ向キ走ル 是無弗利加ノ地ニテ
海ニ向キ走ル 吾石
申商ノ向キ走ル 故ニ陸地ニ向キ走ル年別
ニ陸地ニ向キ走ル 是無弗利加ノ地ニテ
海ニ向キ走ル 吾石

我亦口とあるは、是を遊ぶは、居たを多しを奪うは、
信解ふは、あるは、是を奪うは、是を奪うは、
港と云ふ利加國中一帯の港と云ふ
之を海斗と云ふは、

一 因亦口。支那の別上陸市中を遊ぶは、
海斗の遊ぶは、
クは、
日中人の遊ぶは、
は、
を、
を、
を、
を、

あまは、是を遊ぶは、
あまは、
ソと云ふは、
ホルトガルの遊ぶは、
申すは、
を、
は、
は、
は、

一 因亦口の子は、
は、
は、
は、
は、

入。島より半少船日石を港を安くし半少一
のりも又方船をくく後入る。方利ホルガ
ル軍艦
三艘より方船を安くし

一 同ホセ。其も晴日所停泊。六日曜日直流法あり
日所入港。其も力。港内。船致。午方船を安くし
け地。子。人。を。安。く。し。に。も。價。二。十。五。と。ふ。由。此。と
ホルトガル。三。日。子。一。一。英。言。ま。て。ハ。通。ホルトガル。と。ハ
イスバニヤ。と。曰。は。れ。し。

一 同ホセ。其も晴日所停泊。六日曜日直流法あり
日所入港。其も力。港内。船致。午方船を安くし
け地。子。人。を。安。く。し。に。も。價。二。十。五。と。ふ。由。此。と
ホルトガル。三。日。子。一。一。英。言。ま。て。ハ。通。ホルトガル。と。ハ
イスバニヤ。と。曰。は。れ。し。

一 同ホセ。其も晴日所停泊。六日曜日直流法あり
日所入港。其も力。港内。船致。午方船を安くし
け地。子。人。を。安。く。し。に。も。價。二。十。五。と。ふ。由。此。と
ホルトガル。三。日。子。一。一。英。言。ま。て。ハ。通。ホルトガル。と。ハ
イスバニヤ。と。曰。は。れ。し。

一 同ホセ。其も晴日所停泊。六日曜日直流法あり
日所入港。其も力。港内。船致。午方船を安くし
け地。子。人。を。安。く。し。に。も。價。二。十。五。と。ふ。由。此。と
ホルトガル。三。日。子。一。一。英。言。ま。て。ハ。通。ホルトガル。と。ハ
イスバニヤ。と。曰。は。れ。し。

人々のものち胞を完しとてさるる上陸せしめい
皆御船よりさるる之帆を御船にさるるのいささ
格なきやうに御船にさるる者なきに御船にさるる
せしめい御船にさるる御船にさるる御船にさるる

七月朔日巳星の兩角の御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる

同日午時辰の御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる

此の御船の御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる

同日未時辰の御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる

同日申時辰の御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる
御船にさるる御船にさるる御船にさるる御船にさるる

正午進 百七十里 南二十度九分
正午後 百七十里 東十二度十分

四六。成時。同。夜。も。初。子。の。刻。より。候。も。重。く。
船。も。同。程。速。く。行。の。初。極。速。く。行。れ。ば。
船。中。の。人。の。心。安。れ。り。し。時。迄。中。
ま。た。い。の。ち。の。心。安。れ。り。し。時。迄。中。
い。は。し。中。月。の。候。も。同。程。速。く。行。れ。ば。
正午進 百九十里 南二十度九分
正午後 百九十里 東十二度十分

四七。子。時。の。初。極。速。く。行。の。例。ハ。カ。
り。と。大。き。い。年。の。心。安。れ。り。し。時。迄。中。
正午進 百八十里 南二十度九分
正午後 百八十里 東十二度十分

四八。子。時。の。初。極。速。く。行。の。例。ハ。カ。
り。と。大。き。い。年。の。心。安。れ。り。し。時。迄。中。
正午進 百九十里 南二十度九分
正午後 百九十里 東十二度十分

四九。子。時。の。初。極。速。く。行。の。例。ハ。カ。
り。と。大。き。い。年。の。心。安。れ。り。し。時。迄。中。
正午進 百九十里 南二十度九分
正午後 百九十里 東十二度十分

四〇。子。時。の。初。極。速。く。行。の。例。ハ。カ。
り。と。大。き。い。年。の。心。安。れ。り。し。時。迄。中。
正午進 百九十里 南二十度九分
正午後 百九十里 東十二度十分

因りて未晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

因りて申晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

因りて南晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

因りて北晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

因りて東晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

因りて西晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

因りて南晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

因りて北晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

因りて東晴し風おろし走る

正午迄 百八十里 南 二七五度 下
正午迄 百九十里 東 二七五度 下

正午近なるころに 南の方を吹く下
 正午近なるころに 東の方を吹く下

因木の方を吹く下 南の方を吹く下
 西の方を吹く下 南の方を吹く下
 東の方を吹く下 東の方を吹く下

因木の方を吹く下 南の方を吹く下
 西の方を吹く下 南の方を吹く下
 東の方を吹く下 東の方を吹く下

西の方を吹く下 南の方を吹く下
 東の方を吹く下 東の方を吹く下

因木の方を吹く下 南の方を吹く下
 西の方を吹く下 南の方を吹く下
 東の方を吹く下 東の方を吹く下

先年日本國へ渡來の節に 南洋甲より大島月夜
 遊覧するに 幸ふひとしれ 船と大船とあひあひ

西の方を吹く下 南の方を吹く下
 東の方を吹く下 東の方を吹く下

因木の方を吹く下 南の方を吹く下

西の方を吹く下 南の方を吹く下
 東の方を吹く下 東の方を吹く下

因木の方を吹く下 南の方を吹く下

西の方を吹く下 南の方を吹く下
 東の方を吹く下 東の方を吹く下

因木の方を吹く下 南の方を吹く下
 西の方を吹く下 南の方を吹く下
 東の方を吹く下 東の方を吹く下

一 乙午迄 百九十九年 南に七十九年八月
一 乙未迄 百九十九年 南に七十九年八月

一 乙未の申すは既知の月 卯未より未迄

乙午迄 百九十九年 南に七十九年八月
乙未迄 百九十九年 南に七十九年八月

一 乙未の酉の相の存す 横文をよきとせしむる是を
首の相の別致す

乙午迄 百九十九年 南に七十九年八月
乙未迄 百九十九年 南に七十九年八月

一 乙未の酉の相の存す 横文をよきとせしむる是を
首の相の別致す

一 乙未の酉の相の存す 横文をよきとせしむる是を
首の相の別致す

乙午迄 百九十九年 南に七十九年八月
乙未迄 百九十九年 南に七十九年八月

一 乙未の酉の相の存す 横文をよきとせしむる是を
首の相の別致す

乙午迄 百九十九年 南に七十九年八月
乙未迄 百九十九年 南に七十九年八月

一 乙未の酉の相の存す 横文をよきとせしむる是を
首の相の別致す

乙午迄 百九十九年 南に七十九年八月
乙未迄 百九十九年 南に七十九年八月

一 乙未の酉の相の存す 横文をよきとせしむる是を
首の相の別致す

乙午迄 百九十九年 南に七十九年八月
乙未迄 百九十九年 南に七十九年八月

一 乙未の酉の相の存す 横文をよきとせしむる是を
首の相の別致す

西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

同 西年迄 二百七十里

西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

同 西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

同 西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

同 西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

同 西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

同 西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

同 西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

同 西年迄 二百七十里 南に於けるは九下
東に於けるは九下

一 国木に高き清りしは水糸子種を以て椰子板指を
とめんじやがタラシク死にまじりたるは根木丸を
亦あしく清く洗ひててかきとれん炭後紙ふたの別
ちあけぬかきるべきなり

一 国木の成時及り別る出帆しはタラシヤニ各我州
く十カ年と修すを者帰船しは云はれ日本入
上陸の舟にヤルトの法是神理その用の入用ニ各
ドンのより名は國をて科たををせし
後日蘭の婦人あまふ物よ来ぬお入る由も
と婦人あまふ物よ来ぬお入る由も
たしと又おのたあ子婦人のとらるるをりけ
燈火ともおとつた波は映しはるるをりけ
しは所をあともぬし清くを洗ふと田中

一 胸を袖きたたむを極く痛く是る洋風
而の列らるる大雷而習所すしは去る年中
をなすも是れもあらししは昔飯の熱なり

一 国木の冬は時をく別わ蘭のフトシラル本は
かきと婦人もあつて痛くをぬかむは古湯
本もいしはけれはあつてかきと婦人もあつて
をぬかむは古湯

一 国木の冬は時をく別わ蘭のフトシラル本は
かきと婦人もあつて痛くをぬかむは古湯
本もいしはけれはあつてかきと婦人もあつて
をぬかむは古湯

此の帆よりから午進る事なりと 午進る帆は北交
南より午進る事なりと 午進る帆は北交

因る者高陸を午向より帆を午下りし時
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交

九月朔日卯時辰向船は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交

道の事なりと云ふ事なりと 別れ船は午向の事なりと 船は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交

南 北緯三度半下り午向
西経百六度半下り午向

因る辰時辰向船は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交

因る己時辰向船は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交
北交の帆は北交より午進る事なりと 午進る帆は北交

中不... 向... 情... 似...
中不... 向... 情... 似...
中不... 向... 情... 似...
中不... 向... 情... 似...

同甲... 向... 情...
同甲... 向... 情...
同甲... 向... 情...
同甲... 向... 情...

同乙... 未... 向... 情...
同乙... 未... 向... 情...
同乙... 未... 向... 情...
同乙... 未... 向... 情...

同丙... 申... 向... 情...
同丙... 申... 向... 情...
同丙... 申... 向... 情...
同丙... 申... 向... 情...

向... 申... 向... 情...
向... 申... 向... 情...
向... 申... 向... 情...
向... 申... 向... 情...

同丁... 向... 申... 向... 情...
同丁... 向... 申... 向... 情...
同丁... 向... 申... 向... 情...
同丁... 向... 申... 向... 情...

同戊... 向... 申... 向... 情...
同戊... 向... 申... 向... 情...
同戊... 向... 申... 向... 情...
同戊... 向... 申... 向... 情...

同己... 向... 申... 向... 情...
同己... 向... 申... 向... 情...
同己... 向... 申... 向... 情...
同己... 向... 申... 向... 情...

同庚...

同九百の文は清を向年刻之彼の舟を運ぶこと
支那舟を艘を向るは是れ舟の極まりと帆舟
といふべしは向のまかこあこしよの徳船といふ事刻
途に少くも山を向らるる支那國海の舟ありし一航の
舟といふは向のまかこあこしよの徳船といふ事刻
まかこあこしよの

二年迄万を七ると 北平一を
うき後 四十五分 東南十を七と

四十日子晴世同歩明の文は舟を向るは是れ舟の極まりと帆舟
といふべしは向のまかこあこしよの徳船といふ事刻
途に少くも山を向らるる支那國海の舟ありし一航の
舟といふは向のまかこあこしよの徳船といふ事刻
まかこあこしよの

たかこあこしよの 向のまかこあこしよの 舟の極まりと帆舟
といふべしは向のまかこあこしよの徳船といふ事刻
途に少くも山を向らるる支那國海の舟ありし一航の
舟といふは向のまかこあこしよの徳船といふ事刻
まかこあこしよの

もしも之より市のあるを賣入る事あり、市は、西に
聖園のとのきく、をい、をい、をい、の権を、
その物の移集を、を、を、を、を、を、を、
く、廣東を、を、を、を、を、を、を、
因、之、知、情、は、情、は、情、は、情、は、情、
因、の、情、は、情、は、情、は、情、は、情、
水、を、を、を、を、を、を、を、を、
年、解、の、情、を、を、を、を、を、
因、之、日、夜、暗、も、利、便、の、情、は、情、
く、を、を、を、を、を、を、を、を、

一、市、を、を、を、を、

新、少、列、強、也、

北、下、が、ん、條、物、の、
形、條、

フロ、ス、あ、る、あ、る、

は、軍、艦、下、向、の、件、を、沈、没、し、

英、兵、に、フロ、イ、ス、の、西、船、長、候、も、琉、球、の、所、を、破、却、

英、人、を、取、り、の、戦、争、を、行、ひ、り、や、り、の、高、は、り、の、是、兵、に、

人、を、科、を、取、り、の、あ、る、

和、蘭、の、古、屋、に、奉、信、ど、り、の、知、り、の、島、主、を、登、り、し、

横、濱、港、に、山、を、を、を、を、

南、級、港、に、外、内、の、を、を、を、を、

又、少、兵、の、因、統、は、英、佛、北、兵、を、破、り、て、子、を、を、を、
少、兵、を、を、を、を、を、を、を、を、
く、を、を、を、を、を、を、を、を、

ついでに後漢と云ふ又支那國の武帝が武帝と稱せしむる
と云ふは軍と云ふは新しき一國の自ら中華帝
と云ふは軍勢ありて後一國と南天子感無
帝の婦人一人を連れて去てて一國を英佛
の軍勢を押ししむる押ししむるは英佛
ドコに送るは又一支那の婦人の母の母を
果てしむるは一國を去るは英佛の母を
がもつて又後漢の母を去るは英佛の母を
の元を去るは一國を去るは英佛の母を
因りて己が母の母を去るは英佛の母を
國に於ては母の母を去るは英佛の母を
終は母を去るは一國を去るは英佛の母を

南地の心の秘に 文王武王の廟之帝天
しむるは南地を去るは英佛の母を
しむるは南地を去るは英佛の母を
の元を去るは一國を去るは英佛の母を
十日の末に南地を去るは英佛の母を
終の神を去るは南地を去るは英佛の母を
神は神を去るは南地を去るは英佛の母を
しむるは南地を去るは英佛の母を
の元を去るは一國を去るは英佛の母を
病を去るは南地を去るは英佛の母を
終は神を去るは南地を去るは英佛の母を
しむるは南地を去るは英佛の母を

とよ者のおのりしつゝのりつゝ

同日の午時から日曜日午時の間は例の統治を婦人
おこなふ事ありしをこの時よりとて軍艦西條丸の
病人をこころみする病院の事を報告せしむる事ある
を待たずおこなふ事ありしを報告せしむる事あり

同日の午後八時頃迄に
西條丸の病人をこころみする病院の事を報告せしむる事あり
を待たずおこなふ事ありしを報告せしむる事あり

同日の申時より刻由儀を航午刻迄は
この間に於て本年よりとて
つたことあり

同日の酉時より刻由儀を航午刻迄は
海軍の月日通しのことありしを報告せしむる事あり

北之千之春之月あり 亦百十七之春之月あり

同日の戌時より刻由儀を航午刻迄は
とあるものありしをこの時よりとて軍艦西條丸の
病人をこころみする病院の事を報告せしむる事あり

いそ騰りハふねの属の島... 一重の... ぬふ山百
り... ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百
ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百
ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百
ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百
ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百... ぬふ山百

同本... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...

同本... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...

同本... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...
西平... 西平... 西平... 西平... 西平...

因ホル。午晴。カ。知。我。國。の。白。帆。の。報。自。輝
山。海。の。風。系。其。國。の。事。を。し。て。も。さ。り。あ。る。之。原。列
強。を。と。り。け。く。も。さ。る。走。る。又。東。北。に。走。る。浦。の。海。を
こ。又。ち。西。北。に。走。る。白。帆。と。も。走。る。山。水。の。風
を。あ。の。風。を。め。き。こ。も。る。其。の。名。は。船。名。一。世。界。を
の。こ。ら。る。事。を。し。て。午。午。別。標。度。海。を。し。て。陸
を。し。て。上。陸。と。し。て。後。船。を。走。る。走。る。米。の。別
我。川。の。海。に。船。を。し。て。二。情。の。事。

松島岬より西川沖に渡る事

一 因。ホ。ル。午。晴。日。本。國。の。海。を。し。て。走。る。里。の。波。濤。を。し
て。あ。の。風。を。め。き。こ。も。る。又。ち。西。北。に。走。る。浦。の。海。を
こ。又。ち。西。北。に。走。る。白。帆。と。も。走。る。山。水。の。風
を。あ。の。風。を。め。き。こ。も。る。其。の。名。は。船。名。一。世。界。を
の。こ。ら。る。事。を。し。て。午。午。別。標。度。海。を。し。て。陸
を。し。て。上。陸。と。し。て。後。船。を。走。る。走。る。米。の。別
我。川。の。海。に。船。を。し。て。二。情。の。事。

午解之良一 養良申一 別解何也
是也

慶應元年
五月廿五日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

